

英語を学ぶ楽しさ

また学校では、ALT（母国語を英語とする）の先生を招聘している学校が一般的です。小学校に始まり中学校で3年間、高校で3年間、さらに大学に進めば4(2)年間、総計10(8)年間以上の長きに渡り英語を学ぶ場合もあります。それでもなかなか英会話となると上手く英語を使いこなせないと言う向きもあるようです。これは仕方のないことです。なぜなら、日本語と英語はその文法体系、音の標記、発音の決まりもちがうのですから。その違いを楽しんで英語学習に取り組むことが心構えの第一歩です。

中学校3年間の教科書には英語の表現上のエッセンスである基本文型、単語、熟語が順序正しい配列で網羅されておりますので、教科書を丸ごと身につけることでこれから始まる‘英語的生活’の基礎固めをいたしましょう。

① 聴くこと listening

＜とにかく聴いて聴いて、聴きまろう！＞

ALTの先生ならば申し分ありません。でも、ALTの先生が居ない授業でも英語の先生と一緒に授業に参加している仲間の英語の音をとにかく一言も漏らさず、よお〜聴きましょう。また自分が発音している英語の音も意識して聴きましょう。家庭学習ならば、録音するのもよいアイデアですね。

② 言うこと speaking

＜声に出して言って見よう。＞

少し前に「声に出して読む日本語」と言う書物がブームになりましたね。英語もぜひ「声に出して読む英語」を合言葉にしてよろしくおねがいします。大方の旭中生が日々の生活を英語ではない言語で送っていらっしゃるでしょうから、なおのこと意識してお読みくださることをお願いします。

③ 読むこと reading

＜美しい英文を読もう。＞

その点教科書の英文は偏向しておらず、文法的にも正しく精査されたものが載せられています。すでに触れましたとおり、1, 2, 3年の教科書に出てくる英文をよく読んでどんな意味の文(文章)なのか、ひとまとまりの英文を読み、その意味が分かるようにする事で自ずと英語的表現が身につきます。余力のある方は教科書に止まらず、英語で書かれている新聞、雑誌、漫画、小説などにも挑戦してみたいかがでしょうか。中学生の英語力で充分可能な書物もたくさんあります。

④ 書く(綴る)こと writing

＜‘作家’、‘記者’になってみよう。＞

たとえば、日本語では、よく1人称の主語を省いた表現をしますが、英語では命令文を除き、主語は省略しません。(実は、命令文の主語は存在しています。____ですよ。)

問い1 _____ open the door.

また、興味深い例として、

問い2 Nothing is more important than our lives.の表現のように nothing「なにもないということ」を主語にしたりします！

さらに、語順によって、意味が変わってしまいます。

問い3 A: He gave Yuki the dog. と B: He gave the dog Yuki.では、意味が違います！

そこで、今まで教科書に出てきた英文の表現を真似て、あるいは準えて、ひとまとまりの英文を書いてみる訓練を日常生活に取り入れましょう。英語的表現を意識することは、英語を母国語とする人々の歴史、文化、風俗、習慣、気候、価値観などを理解することにもなり、裏を返せばわたくしたち日本を写す鏡を持つことにもなります。

＜英語学習 10 か条＞

- 1 毎日、勉強いたしましょう。(英語を使いましょう。)
- 2 聴いて、声に出して、読み取って、書いて勉強いたしましょう。
- 3 新しく覚えた単語、イディオム、文型をどんどん使ってコミュニケーションいたしましょう。
- 4 疑問点は、恥ずかしがらずに友達や先生にどんどん質問いたしましょう。
- 5 英文を作って、英語の得意な友達、先生、家族に添削していただきましょう。
- 6 問題集・参考書だけでなく、英語関連番組、インターネットなどで英語に親しみ英語で楽しみましょう。
- 7 英語を母国語とする国々について積極的に学びましょう。
- 8 英語以外の言語にも興味を持ちましょう。
- 9 広く世界に胸襟を開きましょう。
そして何といても、
- 10 深く 日本を学ば しょう。

“I love, you love, we love English! We are the English Kings! English loves us!”